

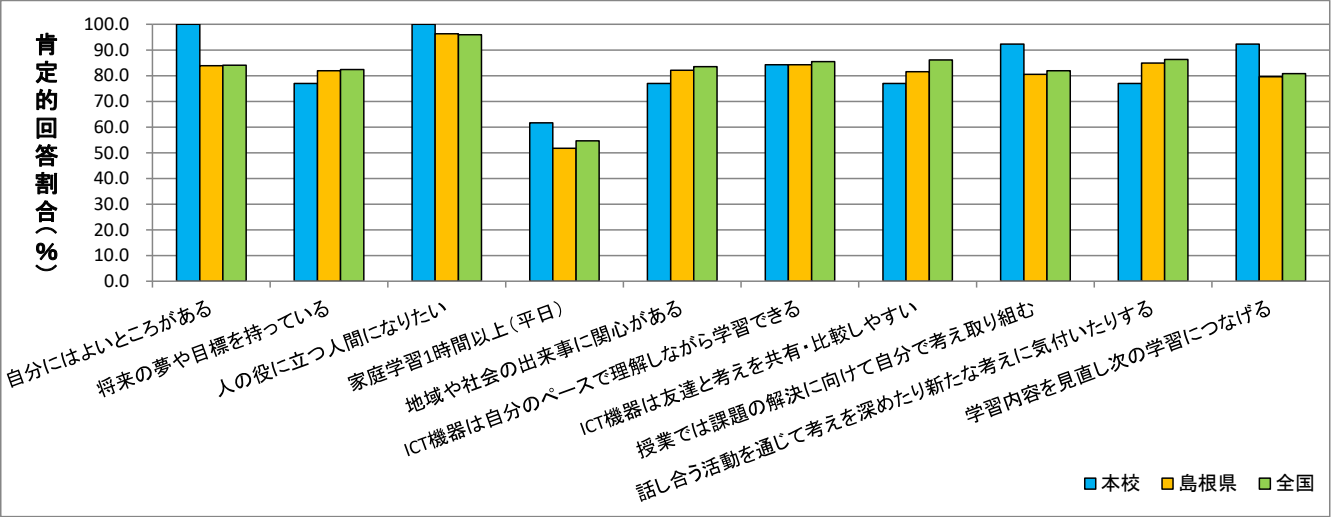
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
国語	○文章を読み、その内容を読み取ることができる。 ○言語の漢字の送り仮名を正しく書くことができる。 ●条件に沿って書くことが苦手。 ●題意に沿って書く、多くの情報から選んで書くことが苦手。	・メモを書くことや思考ツールなどを使って、書く活動を意図的に設ける。 ・タブレットを用いたドリル学習などにより既習の漢字の読み書きや基礎的な言語事項の習熟を図る。
算数	○図形領域の学習内容は概ね定着しており、展開図から直方体、立方体をイメージすることができる。 ○記述式の問題等、苦手だと思われる問題に対しても、粘り強く取り組むことができる。 ●データの活用領域が苦手であり、問題に対して、どのデータをどのように利用すればよいかわからない児童が多い。 ●記述式の問題の解答の説明が不足している児童が多い。	・データを利用する問題については、データと題意、解法を関連付けて考えることができるように、ICT等を用いた授業改善を図る。 ・式の意味が分かるような指導を行い、問題と式、具体物をリンクした説明ができるようにする。 ・上位層のさらなる底上げになる支援を行う(質の改善)とともに、全体の底上げのために、全校で定期的にチャレンジテストを行ったり、タブレットを用いたドリル学習を行ったりする(量の改善)。

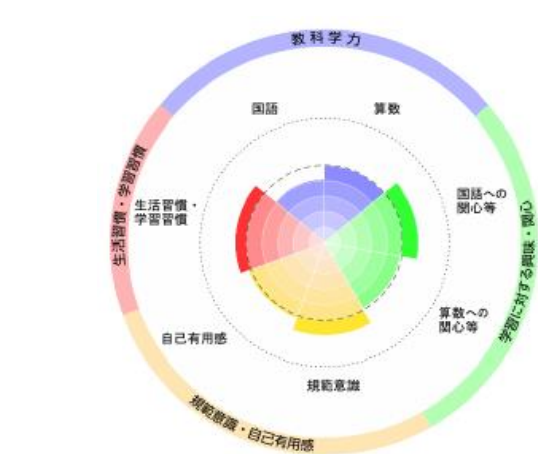
(2)質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策(・)
質問紙	○「自分によいところがある」、「先生から認められる」という児童の割合が平均より多い傾向にある。 ○「道徳の授業では、自分の考えを深めたり学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」と回答している児童の割合が高い。 ●休みの日の勉強時間が、全国平均に比べて少ない。 ●「将来の夢や目標を持っている」という児童が、県や全国平均よりやや低い。	・家庭学習の定着を図るために、学年に応じた質と量を検討するとともに、チャレンジテストについて取組状況や結果等について家庭に情報提供することで、家庭との連携をさらに深める。 ・出前授業や校外学習等を通して、キャリア教育をさらに充実させ自己の将来について考え、見つめる機会をさらに増やす。

(3)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・ICT機器を使って児童同士、または教師と児童が考えを共有・比較できるように、研究授業や近隣の学校との情報交換等により授業改善を行う。

【受検者数】
13 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。